

国際かんがい排水委員会等活動支援調査事業

【平成31年度予算概算決定額 32（19）百万円】

<対策のポイント>

国際かんがい排水委員会（ICID）や国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）での活動を通じて、かんがい排水に関する国際的な議論のリードや情報収集、ソフトインフラを含む我が国の技術・研究の普及、メンバー国との協力関係の深化等を図ります。

<政策目標>

我が国の主導によりかんがい排水分野におけるワークショップ等を開催し、同分野における我が国の技術・研究の普及を図る（7回以上〔平成32年度まで〕）

<事業の内容>

1. 国際かんがい排水委員会活動促進支援調査 22（12）百万円

- 国内委員会の開催、ICIDアジア地域作業部会等ワークショップの開催、世界かんがい施設遺産活動等の、ICID日本国内委員会の活動及び運営を支援します。
- 国内委員会委員及び若手専門家を、ICID国際執行理事会や各種作業部会等、ICIDが行う活動に派遣します。
- ICIDの各種会合における議論・課題及び最新の技術・研究等の情報収集等を行います。

2. 国際水田・水環境ネットワーク活動強化 10（7）百万円

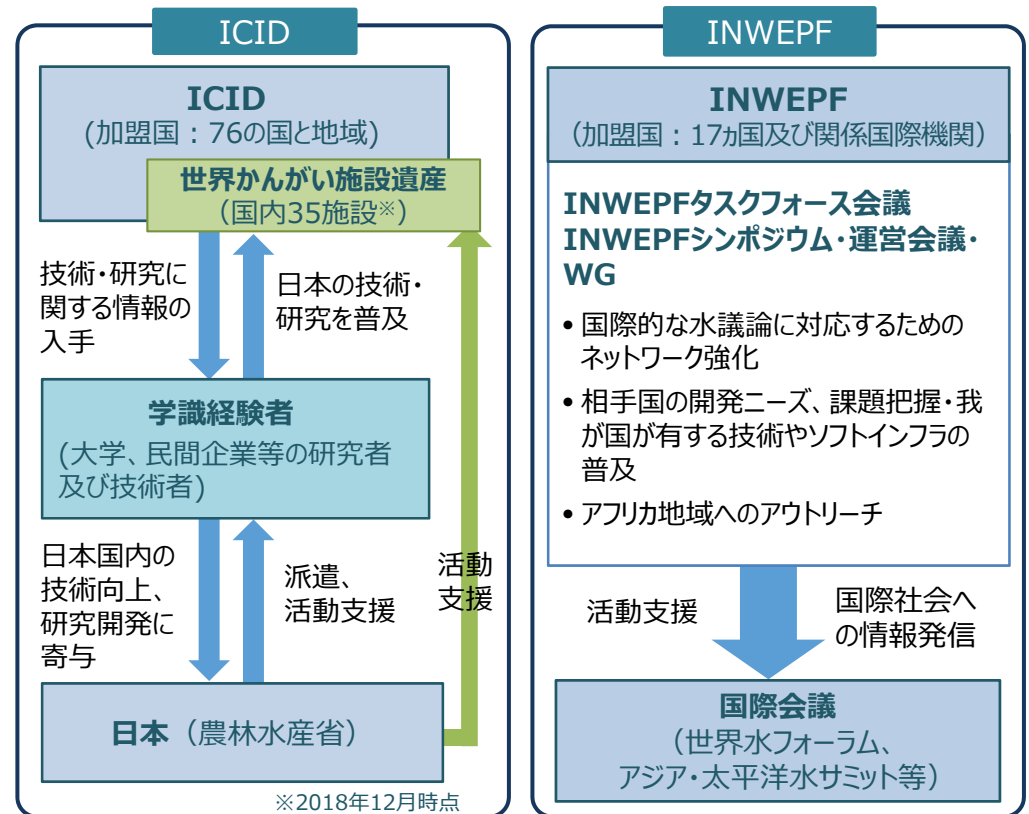
- INWEPF運営会議や作業部会等、INWEPFが行う活動に参画するとともに活動を支援します。
- INWEPFの各種会合における議論・課題及び最新の政策・技術等の情報収集等を行います。

〔事業実施期間：1の事業 平成29年度～平成32年度
2の事業 平成30年度～平成32年度〕

<事業の流れ>



<事業イメージ>



【お問い合わせ先】 農村振興局設計課海外土地改良技術室（03-3595-6339）

【参考】 国際機関の概要（ICID及びINWEPF）



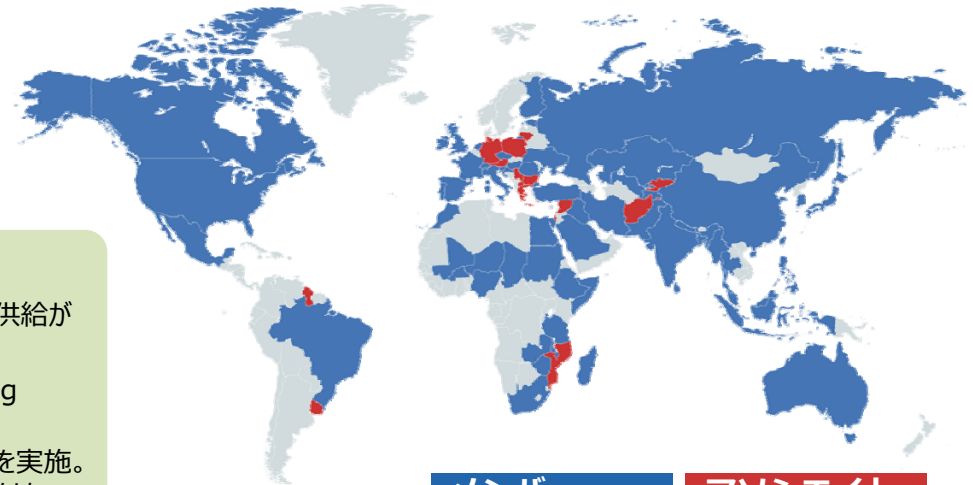
国際かんがい排水委員会（ICID：International Commission on Irrigation and Drainage）

ICID-CID

- かんがい排水に係る科学的・技術的知見により、食料等の供給を世界規模で強化することを目的として1950年に設立された自発的非営利・非政府国際機関。
- 世界の76の国と地域が加盟し、各国は国内委員会を設置。我が国は1951年に閣議決定の上加盟。

ICID Vision 2030（2015年10月ICID国際執行理事会採択）

- 「持続可能な農村開発を通じた、貧困と飢餓から解放されたwater secure world（水供給が保証された世界）の実現」を目的とし、6つの目標（Goal）を設定。
- 2017年9月に策定されたアクションプランでは、TSP（技術支援プログラム）やYP（Young Professional）制度の活用を推進。
 - TSP：ICID加盟国の要請に応じ、専門家を派遣して農業用水管理における能力開発を実施。
 - YP制度：40歳未満の専門家に対し、会議参加費の減額や作業部会への参加資格を付与。



メンバー

アソシエイト



国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF：International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields）

- 第3回世界水フォーラム（2003年3月京都）の一環として開催された「水と食と農」大臣会議を契機に、我が国が主導して創設した国際ネットワーク。（2004年11月設立）
- 上記大臣会議で採択された3つの挑戦「食料安全保障と貧困軽減」「持続可能な水利用」「パートナーシップ」の具現化を目的とする。

- メンバー国：日本、韓国、中国、マレーシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、タイ、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、ラオス、バングラディシュ、エジプト、インド、パキスタン（17カ国）
- 関係国際機関：FAO、ICID、IWMI（国際水管理研究所）、MRC（メコン河委員会）等

